

【亀の瀬溪谷・大和川の舟運】 現地講演

2017. 11. 11.

王寺町教育委員会 岡島永昌

剣先船 (けんさきぶね)

○船数

古剣先船 211 艘 正保 3 年 (1646) 免許

新剣先船 100 艘 延宝 3 年 (1675) 免許

○大きさ

「諸川船要用留」(『大阪市史』第 5 巻、1911 年)

・長さ 11 間 3 尺 <約 17.58m>

・梁間 1 間 1 尺 2 寸 <約 1.88m>

※ただし、これらは 5 尺間

『和漢船用集』(明和 3 年 [1766] 刊)

・深さ 1 尺 4 寸 <約 42cm>

・16 駄積み <1 駄 135kg⇒2, 160kg>

剣先船 (やなぶね)

○船数

70 艘前後 慶長 15 年 (1610) 船支配申し付け

○大きさ

大川亀吉氏からの聞き取り

(昭和 6 年 [1931] 83 歳、明治初年に船頭)

・長さ 8 間半 <約 15.45m>

・幅 5 尺 <約 1.52m>

・蓆 9 枚を張って帆にする

明治以後の舟運

- ・明治 16 年 (1883) に堰 (閘門) を築造して滝を克服
- ・明治 18 年 (1885) から人乗船を開始
- ・明治 25 年 (1892) 亀瀬隧道の完成で大阪鉄道湊町・奈良間が全通

図 1 『和漢船用集』に描かれた剣先船 (江戸時代・1766、国立公文書館所蔵)

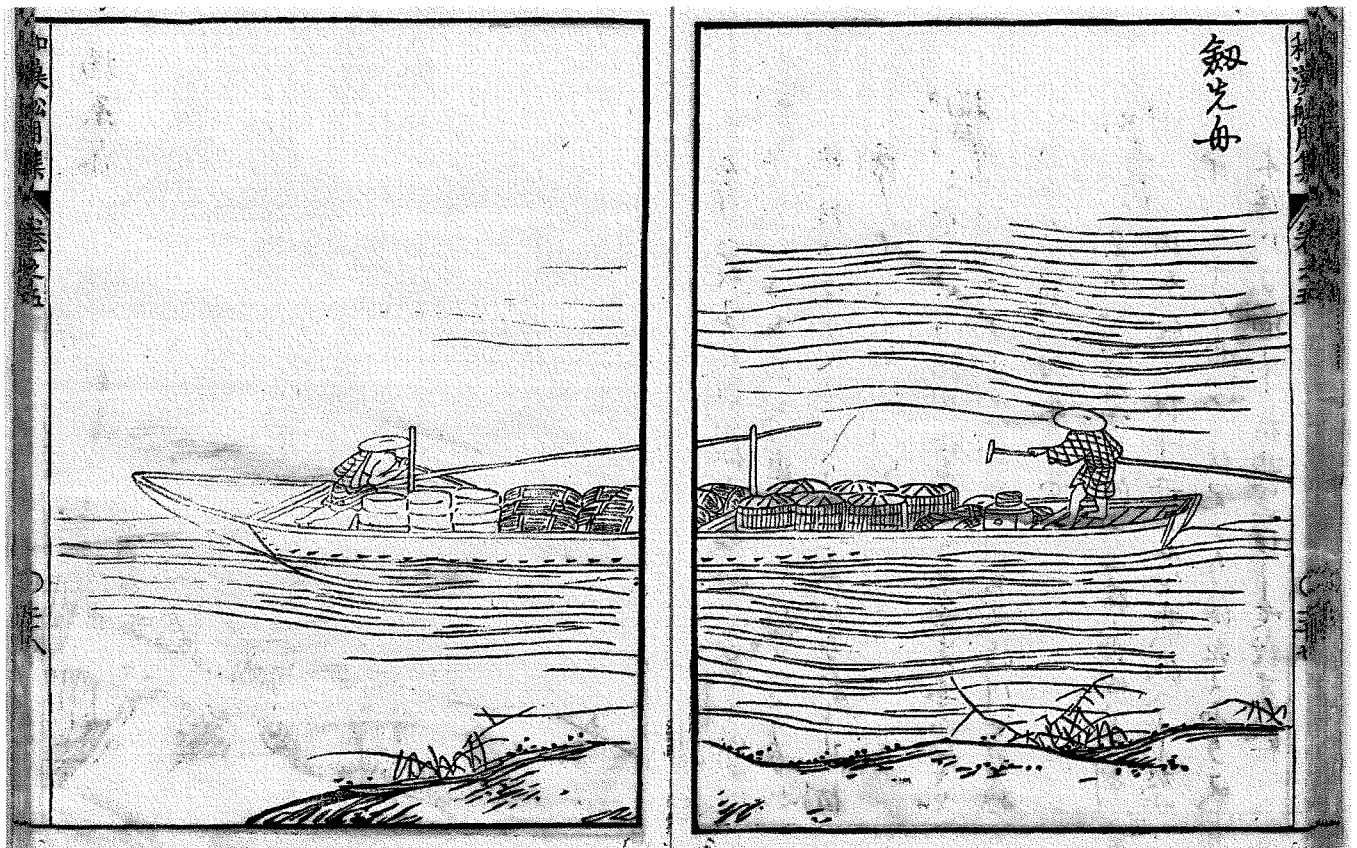


図4 亀の瀬を描いた絵図（江戸時代・1841年）川西町個人蔵

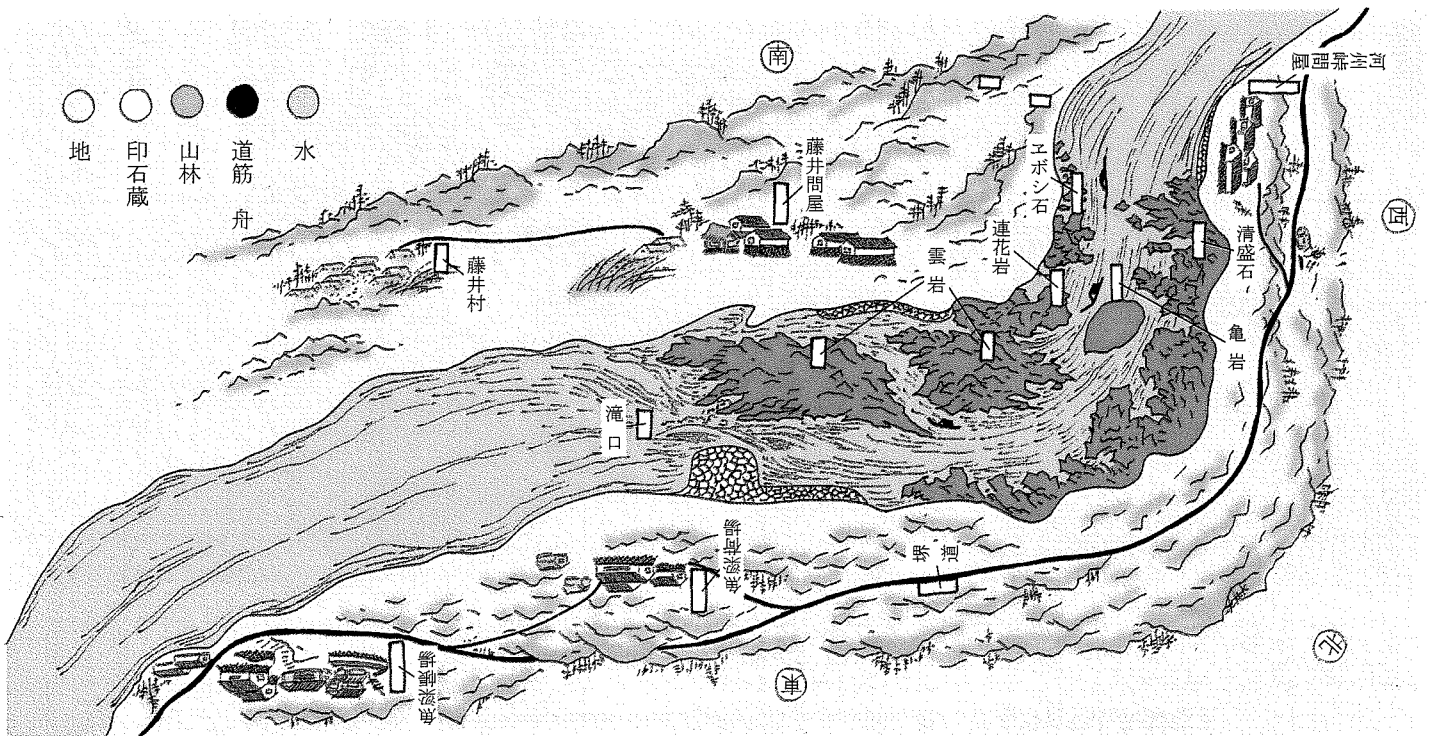


図5 『大和名所図会』に描かれた藤井問屋（江戸時代・1791年）

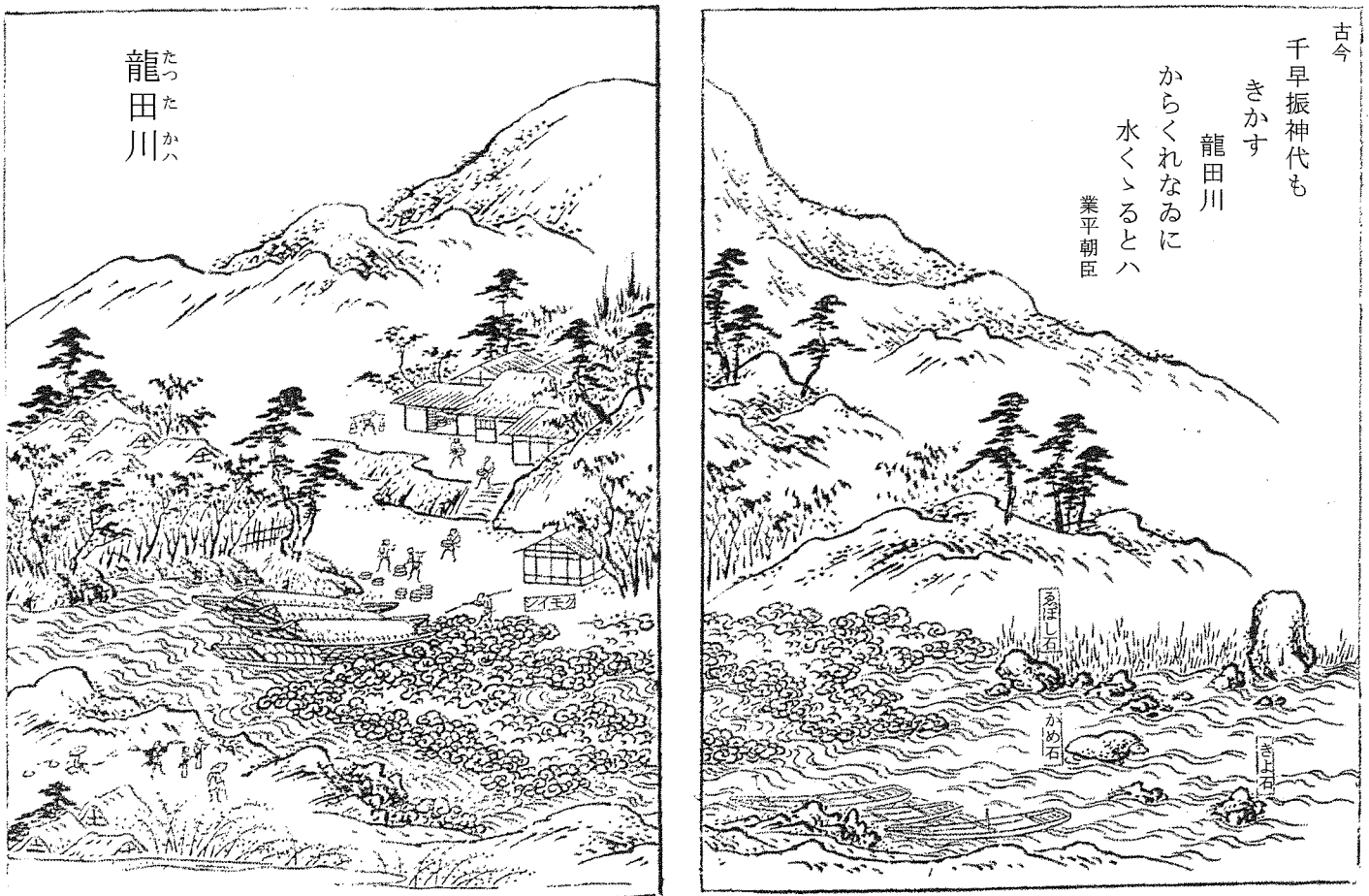


図6 亀の瀬の閘門を描いた絵図 (明治時代、天理大学附属天理図書館所蔵)



図7 人乗船開始を知らせる広告 (『新訂王寺町史』本文編)

地名	往		復		上着差入	下着差入
	船時分	船時分	船時分	船時分		
岩見渡	午前六時	午後六時	午後四時	午前四時	貸金十二銭	貸金十銭
生ノ井手渡	午前六時三十分	午後六時四十分	午後四時十分	午前四時十分	貸金十二銭	貸金十銭
板屋夕間渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
川台渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
御幸夕間渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
勢野渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
追分渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
龜井渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
國分渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
界大和橋渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭
大坂大橋渡	同	同	同	同	貸金十二銭	貸金十銭

廣 告

大和國寺川筋岩見渡初、和河泉城、附船、大和川筋及ヒ、播磨國十三間堀川、經、阪地、道、船、堀川、架、大橋、橋、マ、ノ、開、送、荷、物、運、漕、高、近、北、ハ、大、減、少、シ、テ、船、人、共、難、送、少、ナ、カ、ラ、シ、ム、今、般、船、員、三、外、數、名、ノ、周、圍、ニ、モ、リ、水、月、十、五、日、ニ、テ、夜、ノ、別、ナ、シ、テ、送、荷、物、運、漕、シ、或、ハ、人、乘、船、也、故、候、尤、何、初、運、漕、貨、ハ、從、前、ノ、通、リ、シ、テ、乘、客、ノ、船、賃、ハ、左、ノ、通、リ、ニ、無、條、御、荷、物、運、漕、タ、一、乘、込、ノ、御、方、權、御、來、取、ア、ラ、シ、メ、テ、

船人取頭 辰巳 爲松
右 岡田 益方 山手利右衛門